

### 1. 開催日／実施状況

- 日時：令和4年2月21日(月)
- 場所：WEB会議システム
- 出席者：横手市：危機対策課 斎藤係長、加賀谷専門員  
大仙市：総合防災課 藤田主幹、福田主事  
美郷町：住民生活課 熊谷上席主査、藤田主事  
事務局(湯沢河国)：佐藤調査第一課長、斉藤建設専門官、松倉係長



### 2. 現状・課題について

#### 【大仙市】

- ・ 人口集中する大仙市中心部(大曲地区)の殆どが浸水想定区域内にあり、約3万人が一度に避難する災害が想定されるが避難場所がない。
- ・ 市町村合併による統廃合で公共施設が減少。避難所のためだけに施設を残すことができず、周辺市町村の力を借りなければ全員避難が不可能。
- ・ 住民が考える縁故避難先も浸水想定区域内の場合が多く、縁故避難を除いても約3万人の避難者が発生すると想定。
- ・ 昨年より地域防災計画で、キャンプ場やスキー場の駐車場を車中泊用の避難所として指定し、今後は大きな駐車場を有する民間施設との協定を考えている。牽引型のトレーラトイレの購入(来年7月納車)。また、市バス、民間バスを活用した避難方法の検討を課題としている。
- ・ 平成30年より自主防災組織と連携して、町内会毎のハザードマップ作成を推進し、その中で避難先を考えることを進めてきたが、ここ2年間新型コロナウイルスにより町内会を集めることが出来ず頓挫している。今後再開後に、町内会毎に誰がどこに逃げるのか議論ができればと考える。
- ・ 美郷町との避難先については、担当レベルでピックアップをしていた。可能であればお互いのハザードマップに広域避難所として周知できればと思う。
- ・ 横手市大雄と角間川地区、横手市大森と内小友地区は、浸水箇所や破堤箇所の状況により相互に避難し合える位置関係にあると思われる。大災害が起きた際は、周辺市町村に避難の協力をお願いすると思うが、逆に周辺市町村から災害で要請があった際には受け入れたいと考えている。

#### 【美郷町】

- ・ 3万人の受け入れは無理だが、縁故避難した方を除いた、その他の方が美郷町に避難してくると想定。
- ・ 大仙市で水害発生時に、美郷町で災害が発生していない場合は、要請を受けてから避難所準備に要する時間を検討する必要がある。
- ・ 美郷町には山脈沿いに大きな断層があり、地震発生時に大仙市や横手市に避難するパターンもあり得る。相互に避難できるような関係が作りたい。

#### 【横手市】

- ・ 広域避難には賛同。ただし、避難の細かいルール決定に非常に難しい面が出てくると思われる。
- ・ 横手市でも横手川の浸水想定区域が見直しされ、横手市街の大部分が浸水想定区域になった。水害発生時に利用できる避難所が少ないのは同じ。
- ・ 大仙市で車中泊専用の避難所指定の話があり、参考にしたい。
- ・ ある地区の自主防災組織では、自主作成した地区防災計画のなかで、隣接自治体にある道の駅と協議して第2避難場所として指定している。市町村を越えた避難は、住民の意向が大事で避難行動を確認しないと、避難する人数もわからないと思われる。ただし、それをやるのは難しい。

### 3. 今後について

- ・ 市町村内での避難と広域避難の切替のタイミングに関する先進事例資料を収集する。
- ・ 隣接する市町村の避難所リスト・位置図・収容人数・駐車可能台数に関する資料を整理する。
- ・ 地区単位で住民の避難の意向を把握できるような資料を作成し、確認を行う。
- ・ 各自治体で概略避難人数を想定してもらい、それに対しどう対応できるかなどケーススタディ的な検討を行い、問題点の洗い出しを行うなど、勉強会で議論を進める。